

<第2議案>

## 2012年度収支決算(案)

8～9ページの2012年度収支計算書(自2012年1月1日 至2012年12月31日)と貸借対照表(2012年12月31日現在)をもって、2012年度収支決算とする。

<説明>

2012年度決算のポイントは以下の通りである。

### 1. 全体として

12年は、常勤スタッフ2人体制を前提に、当年度収支差額15万円の赤字を見込んでいたが、7月まで常勤1人体制となったことなどにより、結果としては約35万円の収支黒字となった(予算比で約172万円の収入減、約222万円の支出減)。全体としては、ピースデポ財政の基盤である会費収入が予算を下回るなか、予算を超える委託業務収入や経費削減の努力による支出減等によって財政状況が黒字で維持される形になった。

ピースデポ財政の実態を見やすくするために、将来計画資金は繰越金に含まず、別枠に示した。また、2012年における2011年度(11年7月～12年3月)及び2012年度(12年8月～13年3月)宜野湾市調査委託契約にかかわる収入、支出についても別枠で示した。

以上を勘案すると、2013年度予算への繰越金は、貸借対照表上では約1100万円であるが、表の決算欄の「次年度繰越金」に計上されている約335万円である。

### 2. 会費収入について

会員・購読者の正味増30口を目標としたが、退会者が相次ぎ、達成できなかった。未納会費・購読料の回収努力は一定の成果をあげたものの、会費収入全体で予算比約76万円の減となった。

### 3. 事業収入・支出について

イアブック2012の収入は予算比約68万円減、支出は予算比約24万円減であった。結果として実質収入については、マイナス約9万円(予算比約44万円の減)と、刊行時期の遅れから目標を達成できなかった。イアブック2011の収入は、予算比約18万円増、NPTブックレットの収入は、予算比0.7万円減となった。講演・執筆収入は約3万円増と予算を達成した。情報サービス・調査受託収入は、「オスプレイ配備に伴う米軍機低空飛行訓練アンケート」や、長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)からの翻訳等の受託を行ったことにより、予算比約79万円増となった。公開講演会・セミナーの支出は、2月の総会記念シンポジウムを川崎市の公共施設を利用したこと等により、約27万円の減となった。

事業収支全体では、収入が予算比約20万円の減、支出は予算比約63万円の減であった。

### 4. 寄付金収入、助成金収入について

寄付金は、一般、海外派遣いずれも達成できず、収入は予算比で約26万円減となった。予算化していた助成金50万円は獲得できなかった。

### 5. 管理費、予備費について

管理費全体としては、予算比で約162万円の減となった。賃金の支出が少なかったことに加え、日常的な印刷費・消耗品費の縮減に努めたことなどが主な要因である。